

## 道徳教育の視点から命の教育を考える

吉本 恒幸 先生（聖徳大学教授）



人は誰でもよりよく生きようとする心を持っている。その心に対する援助や働きかけを道徳教育という。学校ではすべての教育活動を通して道徳教育を行っている。その中で要として位置付けられているのが意図的・計画的に授業として行われる「特別の教科 道徳」（道徳科）である。小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から完全実施される。

### 1 内容について

道徳教育では、人間としての望ましい生き方を「内容」として示し、日々の教育活動でそれらを扱うこととしている。「内容」は4つのカテゴリーに区分される。動物飼育や生命に直接かかわるのは「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」のカテゴリーにあり、以下のように示されている。それぞれを道徳的価値、内容項目という。

#### D 自然愛護

〈第1学年及び第2学年〉

身近な自然に親しみ、動植物にやさしい心で接すること。

〈第3学年及び第4学年〉

自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。

〈第5学年及び第6学年〉

自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。

〈中学校〉

自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。

#### D 生命の尊さ

〈第1学年及び第2学年〉

生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。

〈第3学年及び第4学年〉

生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。

〈第5学年及び第6学年〉

生命が多くのかつなぎの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。

〈中学校〉

生命の尊重について、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

以上の内容項目を発達段階に応じて扱い、子供たちの道徳性を育てて行く。

### 2 目標について

道徳教育の目標は、道徳性の育成にある。道徳性は、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と道徳的態度である。道徳性は内面的資質であり、人間としてのよさ、人格の基盤となるものである。

道徳的判断力・・・行為に対して善悪を判断する力

道徳的心情・・・道徳的価値への志向

道徳的実践意欲と道徳的態度・・・望ましい行為への意欲や身構え

### 3 命の教育のポイント

(1) 道徳教育での「命」のとらえ方と属性【生物的な生命】

平等性・均等性 成長性・発達性 連続性・継続性 共存性・共生性 関連性・連鎖性 有限性・唯一性 神秘性・偶然性

### 【精神的な生命】

可能性 発展性 志向性

#### (2) 命の教育の段階な扱い

生物的生命の気付きから精神的な生命への気付きを重視する。

- ① 生物的生命の属性への気付き・・・命とは
- ② 生物的生命がもたらす価値への気付き・・・命があるということは
- ③ 精神的な生命の属性への気付き・・・命があるからこそ

#### 4 「生命の尊さ」と「自然愛護」との関係～動物との関係を中心に～

「生命尊重」で扱う事柄

- ・生命の存在に気付く
- ・生きていることを喜ぶ
- ・生命を守る ・生命を大切にす

「自然愛護」で扱う事柄

- ・世話をす ・やさしくする
- ・かわいがる ・一緒に遊ぶ

両者の関係は双方向にあり、互いに影響を与えていくものである。身近な動物などとの直接体験が緊密であればあるほど、命に対する感性も磨かれていく。

◆「生きもの係」「飼育委員会」などでは子供たちの創意工夫を重視した活動となるよう配慮する必要がある。単なるお世話のレベルでなく、飼育している生きものの生態や適切な環境などを自分たちで調べたり、まとめたり、発表したりするなどの主体的なかかわりがあると、命に対する関心と思いをさらに高めることになる。